

科目名	運動学（運動方法学を含む）		担当教員	熊谷 慎太郎	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3PPP104
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かし、教師として運動学習者に指導する上で重要となる考え方や動きの構造について教授する。				
到達目標及びテーマ	1. 人間の運動と器械や動物の運動の違いを理解するとともに運動学の意義を示すことができる。2. 運動の外的構造と内的構造を理解する。3. 動感創発身体知や動感促発身体知について、実際の運動場面と照らし合わせて理解することができる。				
授業の概要	運動学の授業では、スポーツ・運動の指導現場に役立つ統合的な知識、理論、方法を学ぶ。授業の進め方としては、まず、人間の運動を動物や器械の運動と対比させる中で、学問分野のねらいに迫る。次に、運動の構造、発生、伝承という観点について、グループワークや発表、講義を通して指導方法論を学ぶ。最後に、身近な運動場面を取り上げ、その指導方法や助言方法について考え、発表する。				

授業計画	
第1回	授業概要、評価基準、授業ルールの説明、スポーツにおける主観と客観①
第2回	スポーツにおける主観と客観②、運動することの意義
第3回	スポーツ運動の研究対象（人間の運動と機械の運動）
第4回	人間の運動を研究する方法（自然科学的研究方法と人間学的研究方法）
第5回	動きの構造①（外的構造/局面構造）
第6回	動きの構造②（内的構造/コツ・カン）
第7回	動きの構造③（動きの質/反復練習）
第8回	中間テスト、動きの発生①（マイネルの習熟位相）
第9回	動きの発生②（金子の形成位相）
第10回	アナログンの実践
第11回	動きの発生③（正と負のアナログン）
第12回	動きの伝承①（動感促発身体知①）
第13回	動きの伝承①（動感促発身体知②）
第14回	動きの伝承②（指導者に求められていること）
第15回	期末テスト

事前学修	2時間	各講義のキーワードについて参考資料等で調べること。
事後学修	2時間	各講義の内容を参考資料等で復習すること。
フィードバックの方法	毎授業で提出してもらったレポートに対し、必要に応じてフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	100%	中間テスト20 期末テスト50 プレゼンテーション出来栄え30
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリントを配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	マイネル スポーツ運動学・クルトマイネル著 金子明友訳・大修館書店・ISBN4-469-26066-5 身体知の形成（上）・金子明友・明和出版・ISBN978-4-901933-08-7 身体知の形成（下）・金子明友・明和出版・ISBN978-4-901933-09-4 スポーツ運動学入門・金子一秀・明和出版・ISBN978-4-901933-28-5 運動学講義・金子明友、朝岡正雄編著・大修館書店・ISBN4-469-26177-7			